編集後記：第38期限りで理事を退任することとなり，委員として最後の編集後記を書くことになりました．

2006年に10年ぶりに理事に復帰し，爾来「天気」の編集に携わってきました．以前，1990年代に編集委員長として３期，1980年代の編集委員時代を含めると10数年，「天気」の編集に携わっていましたから，合計すると20数年，「天気」編集に携わってきたことになります．以前の編集後記（2006年11月号）に，編集委員長当時の種々の活動等を書いていますので，当時の編集委員会活動に興味のある方はお読みください．

私は理事として「天気」担当以外に企画調整を担当していますが，その役割は，学会の企画戦略に関し総合調整を図り，理事会等の活動の支援を図ることにあります．今回，そのような視点から，今後の「天気」への期待を述べたいと思います．

現在，学会は多くの課題，例えば，会員数の長期減少，大会運営の改善，学会運営の効率化，財政基盤の強化，本部ならびに支部事務局体制の強化，気象庁との連携の強化等々の課題を抱えています．このような課題の詳細については，本誌「学会だより」欄をお読みください．「学会だより」欄には，多くの学会活動に関する情報，例えば，理事会議事録，支部長会議議事概要，評議員会議事概要等が掲載されています．これらによって，気象学会が抱える様々な課題や新たに取り組むべき活動等について知ることが出来ます．

「天気」と密接に関係する項目として，会員数増加策があります．現在，学会の会員数は長期減少傾向にあり，学会活動を一層盛んにするためには会員数の増加が不可欠です．このためには，多様な分野の方々に入会していただく必要があり，特に，気象予報士，小中高の教職員，更には，高校生等の方々の入会を促進する必要があります．また，現在，気象庁の職員の入会も少なくなっていますので，気象庁職員の方々にも多く入会いただくことも必須です．

このような多様な分野の方々に入会いただくためには，気象予報士の方々に役立つ記事，教職員の方々に役立つ記事，気象庁の現場の職員の方々に役立つ記事等が「天気」に掲載されることが必要です．関係者の興味を引き起こす記事を掲載することによって，入会者も増えると思われますので，会員の皆様からの積極的な投稿や，編集委員の方々の活発な活動が期待されます．

また，学会が公益社団法人としての認定を受けることができたのは，当学会の活動が，「不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するもの」（公益認定法第２条：公益目的事業の定義）として認められた，ということです．社会への発信を伴った活動は，公益活動として非常に重要であることから，会員の研究成果を積極的に投稿いただくことによって，このような目的も達成することが出来ます．

気象学会が今後公益社団法人としてますます発展するためには，会員の方々や編集委員の方々の活動によって「天気」が充実することが不可欠です．「天気」のますますの発展を期待しています．

（藤谷徳之助）